

CAS	100414
物質名	エチルベンゼン
IARC Vol. (発行年)	77 (2000年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> <li>in vitro 試験系では、細菌、酵母菌、昆虫を用いた試験で陰性の結果であった。チャイニーズハムスターの胚細胞を用いた試験では、姉妹染色分体交換は誘発されなかったが、ヒトのリンパ球では弱い陽性を示した。マウスのリンパ球を用いる試験では、最も高い濃度（非致死濃度）において陽性の結果であった。</li> </ul>
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：マウス及びラットに吸入暴露させた結果、マウスでは雄の肺及び雌の肝臓に腺腫を、ラットの雄では腎尿細管の腺腫及びがんを、雌では腎臓の腺腫を認めた。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：職業暴露に関する疫学調査が2調査あり、1調査では手法の記述が発がん性の評価には不十分であり、残りの1調査では追跡した15年間において発がんによる過剰死亡は認められなかった。</p>
評価結果	上記のとおり、本物質は細菌を用いる試験をはじめとする複数の試験系で遺伝子傷害性が認められなかった。